

1 新型コロナウイルスワクチン接種事業について

新型コロナウイルス感染拡大の歯止めに期待されるワクチン接種が国内でもはじまり各自治体にて準備が進められています。横浜市としての対応について4点伺います。

- (1) 3月1日に新型コロナウイルスワクチン接種コールセンターを設置しましたが、市民の不安の解消のためにも積極的に広報を行うべきと考えます。コールセンターの体制、広報などの情報発信について伺います。
- (2) 接種される対象者の移動負担の軽減も重要だと考えますが、集団接種会場の設置場所の選定方法と選定場所について伺います。また、目指す設置場所数についても伺います。
- (3) ワクチン接種会場として、各区のスポーツセンターを予定していると聞いています。一方でコロナ禍における健康維持のためにも利用率の高いスポーツセンターをできるだけ早く再開させる必要があると考えます。市民からも「ワクチン接種が大事なのは分かるが、スポーツセンターが長期間使えなくなるのは困る」という戸惑いの声を聞いています。できるだけ早期にワクチン接種を完了させる見通しとそのための会場確保の考え方について伺います。
- (4) 海外では、キャンピングカーやトレーラーハウスなどを活用してPCR検査やワクチン接種を行っています。また、日本でも一部の自治体でそのような動きがあると聞いています。ワクチン接種にあたっては、高齢者の方など移動に困難を抱える方のためにも、また、短期間でワクチン接種を終わらせるためにも、できるだけ身近な場所で接種場所を確保することが重要です。移動型の接種環境も検討すべきと考えますが見解を伺います。

2 保健所業務の支援について

感染症業務対応強化のための保健所業務支援について2点伺います。

- (1) 令和2年度12月補正予算で、クラスター予防・対策チームY-AEITは、

その業務の一部を民間事業者に委託化をしましたが、その効果はどうか伺います。

(2) 今後の第4波、第5波などを想定した長期化への体制強化について伺います。

3 生活にお困りの方への支援について

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からもホームレスの方の健康管理も重要であると考え1点伺います。

(1) ホームレスの方の感染症対策への支援が重要だと考えますが、体調不良などへの対応やPCR検査の実施など含め、どのような対策を行なっているのか伺います。

4 民生委員・児童委員事業について

福祉保健の取組への住民参加にて身近な地域課題の解決に大きな役割を担って頂いている民生委員・児童委員については、地域の見守りネットワークを構築する上で最重要の存在であることから、本事業について1点伺います。

(1) 民生委員・児童委員については、各地域にてご苦勞いただいている委員のご負担に應えるためにも個人活動費の一人当たりの単価を増額するとなっておりますが、単価の根拠を伺います。そして、各委員の担う役割は相当なご負担だと思っており、地域の課題解決のために寄り添う活動には更なる増額をすべきと考えますが見解を伺います。

5 介護人材支援事業について

本市では、新たな介護人材の確保に向け、2018年7月にベトナムとの覚書を締結する等、特に外国人介護人材の受入れに積極的に取り組んでいます。今後も様々な課題を整理し、人材確保に取り組んでいくことが大切なことから、介護人材支援事業について2点伺います。

(1) 外国人の受け入れ状況について伺います。また、外国人の就業状況や職場における課題などについて伺います。

(2) 介護現場で職員が生き生きと働くためには、なによりも働きやすい職場環境が重要だと考えます。具体的には、職員一人一人の業務負担軽減が図られるとともに、「チーム力」を発揮できるような環境であることが重要であり、本市としても、介護の現場で働く人がモチベーションを維持し安心して働き続けることのできるような取組みと支援を進めるべきと考えますが、見解を伺います。

6 地域ケアプラザ整備事業について

地域ケアプラザ未整備地区の早期解消に向けて1点伺います。

(1) 整備事業としては残りの5か所の整備を進めるとありますが、地域包括ケアシステムを構築する上で、各地域でのケアプラザの必要性、重要性は高く、未整備地区の早期解消に向けて出来る限りの前倒しの開所をお願いしたいと考えますが、取組状況について伺います。

7 福祉関係施設の非常用自家発電設備について

大規模災害時でも高齢者施設等が施設機能を維持し、地域の一時避難場所としての役割を担うような整備が必要だと考え、2点伺います。

(1) 高齢者施設等の非常用自家発電設備について災害対応にむけて整備促進が図られるとなっておりますが、高齢者施設の所在の多くは郊外にあり、孤立してしまうような場所も散見します。運営事業者にはもっと災害時の対応に危機感を持ってもらうことも重要だと思います。そこで、災害時に事業を継続する上で、必要となる設備水準をもっと求めるべきと考えますが見解を伺います。

(2) 地域ケアプラザの自家発電設備の設置状況を伺います。また、先にも述べた様に地域包括支援センターの重要施設として、地域ケアプラザも非常用自家発電設備の強化を進めるべきと考えますが、見解を伺います。

8 動物の愛護及び保護管理事業について

家族の一員としてのペットは、災害時の避難対策が大きな課題です。また、

終生飼育もペット文化としては大きな課題であり、3点について伺います。

- (1) 災害時のペット対策として同行避難訓練などの支援・啓発とありますが、横浜市が想定する最大規模の震災時に、各避難所にどれくらいの数のペットが同行避難すると想定しているのか伺います。
- (2) 市内・区内の大型公園や県立高校などをペット同行避難場所として指定するなど、既存の避難所とは別に、ペットとその飼い主のための同行避難専用避難所を設定することについて、見解を伺います。
- (3) 譲渡会のマッチング状況の推移を伺います。また、現在ペットブームが起きつつあると思いますが、今後のペット飼育放棄が心配です。ペットショップなどへの指導や購入予定者への終生飼育などの考えをもっと広報すべきと考えますが、見解を伺います。

9 斎場・墓地管理運営事業について

将来にわたる火葬の安定供給と市民からの申し込みも多い市営墓地の整備について4点伺います。

- (1) 市営4斎場のそれぞれの稼働率と民間斎場利用者数の推移について伺います。また、現在火葬までの待機日数は平均して4日程度で、待機が長引くと、火葬までのご遺体の保管も課題と伺っています。待機日数の削減に向けての斎場の対応策について伺います。
- (2) 増え続ける火葬需要に対応し、安定した火葬を提供することが重要であると考えますが、鶴見区大黒町で整備を進めている東部方面斎場（仮称）の進捗状況について伺います。
- (3) 戸塚区の舞岡や深谷で墓地の整備や計画が進んでいますが、人口375万人を抱える本市として市営墓地の将来計画では、この先どのように墓地整備を進めていこうとしているのか伺います。
- (4) 現在の市営墓地にて使用者が所在不明となっている区画はどのくらい把握されているのか伺います。また、このような案件は今後の大きな課題だと感じています。本市としての対策を伺います。

コロナ禍にて通常の業務以外の対応等で大変なご苦勞を頂いていると思いますが、健康福祉局は市民生活を支える大切な業務を担って頂いておりますので、引き続き、市民の安心と安全を御守り頂きます様宜しくお願い致します。